
生きてあげようかねえ

ぐんそう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生きてあげようかねえ

【Nコード】

N3486Z

【作者名】

ぐんそう

【あらすじ】

目を覚ますとそこは一面に広がる闇の世界。そこで出会った神様にいきなり告白された。そして訳の分からんことを言われた末に現世に落ちることになる。何も考えずに読める系ハートフルコメディーはじまるよー。

プログラマー(とどうもいへない) (前書き)

魂の在り処は闇の中で・・・

プロローグ（というほどでもない）

目を開けるとそこにはただ闇があるだけであった。

「なんだこれはどういふことだぁ！」

「てやんでい。」

「あ、どうも。」

「あんただれ？」

「コツチの台詞だよ！」

「あら、質問したのは私のほうよ。」

「質問を質問で返すなど？」

「え〜ここは『生きなかつたモノ』の世界です。」

「あぁん？」

「簡単に言えば黄泉の国。でもすこしちがいのよ。」

「どのへんがだよ。」

「う〜ん、その質問に対して具体的な答えを返すのは不可能ね。」

「ははあ、つまり面倒くさいと、」

「言うわけです。」

「まったくもってお後がよろしいようです。」

「で、あんただれ？」

「ああ、次はこっちが答える番か、そうだな・・・」

「何でそこで考える。」

「じゃあ『シヨウ』で。」

「じゃあつてなんだよ、引っかかるなあ。」

「引っこ抜いてやるー。」

「やめなさいよ！嗚呼もうこれだから生きない奴は。」

「生きないってどういふことだよ。」

「あんたは、ここで終わりだと言っことだよー！」

「なんだってー！？」

「そんなあなたに救済チャンス」

「おおおっ？」

「今からアンタは俗世に落ちるのよ。」

「低俗はいやだねえ。」

「あら、私は好きよ。生きない奴よりは。」

「死んでるんじゃないの？」

「いいえ？アンタは死んでませんよ？」

「お前がだよ。」

「ははあ、そんなだから生きられないんですよ。」

「てかさあ、あんただれ？」

「質問を質問で返すな。」

「質問じゃねえじゃん！無かったじゃん！」

「この際どうでもいいのよ。」

「じゃあもういいよ。」

「そうね、強いて言うなら神よ。」

「答えるのかよ、えらく変な神もいたもんだなあ。」

「崇ってやるー！..」

「きゃあ。」

「さ、お遊びはこれまでだね。」

「遊んでたの？」

「いいえ？遊んでませんわ。」

「じゃあ終わらん！」

「せつかちね。」

「コツチの台詞だよ！」

「今のはコツチの台詞。いいからもう生きるよ。」

「え？生きれんの？生きてもいいの？」

「特別よ。」

「なんで？」

「わたしはあなたが好きだからです。」

「なんで神に平仮名で告られなきゃならんのだ。」

「あら、私が神だからという理由以外に何かあって？」

「理不尽だなあ。」

「ああ、あったわ。だってあなた

「生きてないから!？」

「よくできました。」

「満点だよ。」

「じゃ行って来なさい。」

「はあ、行ってきます……」

「間違えたわ、生きてきなさい。」

「はい。」

プログラグ(というほどでもない)(後書き)

まあ、最初はこんなもんかねえ。

感想くれたらうれしいねえ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3486z/>

生きてあげようかねえ

2011年12月11日22時55分発行